

令和7年度第1回堺市博物館協議会会議録

(司会)

- ・出席委員数開会条件成立報告
- ・傍聴者数（2名）報告
- ・資料確認

【館長挨拶】

○協議会の目的

- ・堺市博物館の調査研究や物の収集、保存、管理、あるいは展示、広報、普及、社会貢献などの博物館活動につきまして、委員の先生方から、ご専門の立場から意見を賜る。

○以前の協議会での委員からの意見

- ・博物館の組織や活動の全体像が体系的に見えにくい。組織運営や複数年度の予算・決算の表が出ていない等
- ・博物館の将来展望
- ・展示方針と展示計画
- ・資料収集の方針とその収集結果
- ・資料管理の方法や保存
- ・データベースの作成
- ・学芸員の調査研究や教育の成果
- ・ワークショップや体験学習、講演、セミナー、博学連携や国際機関との連携、アウトリーチ活動など諸活動の成果をあまり公開しなかったことについてのご批判
- ・来館者の対応
- ・解説等の外国語表記
- ・入館者との豊かなコミュニケーションをとっているか否かの工夫
- ・茶室活用の推進等
- ・博物館の意味や役割

- ・こども博物館をどう見るのかというご指摘

○本日の報告・説明予定

- ・休館中の取組
- ・今後の運営に向けて、引き続きご意見・ご助言をお願いしたい。

(司会)

- ・協議会委員紹介
- ・事務局職員紹介

【会長・副会長の互選】

- ・黒田委員から、前の任期に引き続いて、禰宜田委員を会長に、岡田委員を副会長に推薦
- ・意義なしとの総意で、会長・副会長の選任

【会長挨拶】

- ・協議会で様々な活動が報告される。
- ・活発で忌憚ないご意見を頂戴できれば。
- ・会長として、委員の先生方と事務局とのつなぎ役ができればと思う。

【副会長挨拶】

- ・何かあれば副会長としての役割を果たしていきたい。

【議事】

(禰宜田会長)

- ・議事のうち (2) 案件について議論を深めたい旨を周知

<事務局説明>

議事（1）報告①令和5年度～7年度の予算・決算の推移について

○当館の事業は、予算上5つの事業に分かれる。

◆1 博物館管理事業：博物館の運営および施設設備の維持管理の費用

◆2 展示事業：博物館およびさかい利晶の杜で開催する特別展・企画展などの展示等に関する事業費に充てる費用

◆3 資料収集保存事業：本市所有の所蔵品の調査や修復、展示室の照明設備等の環境整備の費用

◆4 普及広報事業：普及事業や、博物館の広報PR活動、研究報告書等の作成の費用

◆5 国際機関との連携事業：アジア太平洋無形文化遺産研究センターとの連携事業の費用

○令和5年度から7年度までの推移

- ・予算額は、令和5年度が合計294,354千円、令和6年度が366,466千円、令和7年度が460,503千円で右肩上がりになっている。
- ・この主な要因は、基本的には博物館管理事業で、施設の営繕管理等の管理運営費用に充てる予算額の増額によるもので、空調設備の更新に関する予算をそれぞれ6年度、7年度と計上しているためである。
- ・その他の主な増減の要因として、令和6年度の資料収集保存事業予算額が、令和5年度予算額よりも約8,000千円増額している。これは、博物館展示室の展示ケース内の照明のLED化等の費用を計上したためである。
- ・令和7年度増額箇所として、普及広報事業が、令和6年度と比較して予算ベースで約5,000千円増額している。これは、ミュージアムグッズ作製の予算と音声ガイドアプリの構築費用、ミュージアム・パスの広報PR資材の作製費等を計上したためである。
- ・また、今年度国際機関との連携事業も約1,000千円増額しているが、これは無形文化遺産のふとん太鼓の動画作成の費用を計上したためである。

<事務局説明>

議事（1）報告②令和6年度の事業報告、入館者数について

○資料3 令和6年度事業報告

◆博物館管理事業

- ・施設他修繕等工事については、記載のとおり。特に大きな工事としては、空調の改修工事を昨年度から着手、今年の11月4日から来年の3月末まで休館を行い、空調機器の更新を行う。

◆展示事業

- ・博物館で 5 件の企画展、さかい利晶の杜で 4 件の企画展を実施
- ・観覧者数等について記載

◆資料収集保存事業

- ・新収蔵資料（購入）は令和 6 年度はなし。
- ・寄贈は 15 件、内容は表のとおり。
- ・寄託は 2 件
- ・館外貸出は 4 件
- ・特別利用（画像貸出）は合計 132 件
- ・資料のデータベース化は、現在の掲載数計 5,924 件
- ・資料整理事業では、大塚山古墳出土品基礎整理を委託で実施。堺半井家資料整理は、館の学芸員で実施
- ・保存修理事業は、阿弥陀来迎図、与謝野晶子自筆歌掛軸、旧堺燈台燈部の保存修理を実施。事業費は資料のとおり。
- ・IPM・資料燻蒸は、トラップによる生物調査や資料のガス燻蒸等を実施

◆普及広報事業

- ・普及事業では、1 企画展に関連する講演会や展示品解説、ワークショップ等を実施
- ・2 学校団体等受入は、昨年度は合計 159 校、11,547 人の見学があった。市内小学校が 8 割程度
- ・企画展以外のワークショップとして、3 体験学習会を実施。昨年度 12 件 17 回を実施し、合計 1,244 人が参加
- ・4 さかいミュージアム・パス&スタンプラリーでは、令和 6 年度から参加施設が前年度の 7 館から 12 館に増加した。12 館への入館者数は合計 13,263 人、12 館すべての入館が 361 人
- ・5~10 に小学生から大学生までの職場体験メニュー、博物館実習、インターンシップ、中堅教員向け研修を記載
- ・11 フォーラム「中世都市堺の景観を考える」は、例年連続講座として実施していたものをフォーラムとして開催
- ・12~14 および資料 3 別紙で、講座や古文書講習会、外部からの講師派遣依頼を記載

- ・15 博物館ボランティアについて、展示解説ボランティアや体験学習ボランティアとして館内で活動。学芸課では、ボランティア向けの研修等を実施
- ・16 多言語音声ガイドは、合計 527 件の利用があった。
- ・17 視覚・聴覚等の障害者でも博物館に親しめるようチラシ等の点字化、当事者の企画展観覧、企画展関連講座等の要約筆記の実施等を行った。
- ・18 ミュージアムグッズは、12 件のグッズの新規作製・再販した。また、ミュージアムショップでの売上上位のグッズは、19 に記載
- ・広報事業として、1 チラシの作成、広報さかいや堺市ホームページへの掲載、博物館公式 SNS での発信、新聞広告やデジタルサイネージ等有料広告の掲出、その他観光系の媒体を通じた無料の外部発信等を実施した。
- ・2 報道機関からの取材への対応は、昨年度計 39 件あった。
- ・3 来館者アンケートでは、とても良い、良いの合計 74%と高評価を得た。改善すべき点のご指摘もあり、隨時対応・改善を進めている。
- ・研究活動として、『堺市博物館研究報告』の作成や、「中世・堺における歴史・文化に関する学際的研究会」等を実施している。

◆国際機関との連携事業

- ・無形文化遺産理解セミナー・ワークショップを 4 件、堺綏通の体験と実演を 2 件、無形文化遺産に関するパネル展示や、それら事業に関する事業報告リーフレット作成を実施

◆以上説明した企画展やイベントについて、資料 4 の一覧表にまとめている。

○令和 6 年度の入館者数

- ・資料 5 に令和 4~6 年度の 3 年間のデータを掲載
- ・昨年度の入館者数は令和 6 年度の博物館総入館者数 130,743 人で、これは博物館と堺市茶室伸庵の利用者の人数を足した数値である。令和 5 年度との比較では、総入館者数で約 4 千人の増
- ・観覧者数では、令和 5 年度より 6,256 人増。現在、大阪・関西万博の関係で、当館にも多くの方にご来館いただいている。
- ・令和 7 年度 7 月末現在の総入館者数が 59,490 人で、対前年比 14,446 人の増、伸び率が 132%

(中委員)

- ・さかい利晶の杜の観覧者数（有料）と来館者数（無料）との差がかなりあるのはなぜか。無料スペースもあり、必ずしも展示を見ないといけないということはないが、できれば差が小さい方がいいと思うが。

(課長)

- ・さかい利晶の杜は、文化観光拠点ともいわれており、有料の展示室に入らなくても、呈茶体験やお土産、休憩など無料ゾーンの利用を目的に来られる方が実際多い。施設の構造・特性上、カウンターで計測している来館者数と実際の観覧者数に差異が出てしまい、現状数値にも表れている。

(爾宜田会長)

- ・無料空間は、弥生文化博物館もあるが、休憩でもいいし、博物館でぼーっとする時間を過ごしてもらうのも、意味があるのではないかと思う。無料の入館者数も館としての意味はあると思う。

(國賀委員)

- ・資料2で事業が5項目に分かれていると説明があったが、まだわかりにくい点がある。
- ・展覧会に関する広報費は2展示事業と4普及広報事業のどちらに入るのか。各展覧会にどれくらい経費的にかかり、そのうち広報費をどれくらいかけているのか。有料広告掲出80万1千円を新聞広告、デジタルサイネージ等9回と記載があるが、この費用も各展覧会に均等に分配しているのか、どこに力を入れておられるのか等がわかれれば、気付いたことを言いやすい。

(課長)

- ・基本的に、2展示事業は各企画展、特別展等を実施する費用を計上しており、この中に含まれる広報部分は、チラシ・ポスターの製作費が該当する。新聞広告のような有料広告掲出費用は4普及広報事業で予算計上している。各企画展における広報費の予算がどれくらいかお示しするには、抜粋した資料を作成することになるが、現状はない。

(爾宜田会長)

- ・資料に関する議論は前々からずっと続いているが、段々と改善されてきている。また今の國賀委員のご意見も含めて、次回以降少しづつ資料作りを改善していくべきだと思う。

(岡田副会長)

- ・資料3の5ページの特別利用（画像貸出）について、具体的に人気のある、利用数の多い資料は何か。

(主幹)

- ・千利休画像が最も多い。次いで住吉祭礼図屏風、仁徳天皇陵古墳の空撮等である。

<事務局説明>

議事 (1) 報告③令和 7 年度の事業計画・組織体制について

○令和 7 年度の事業計画

- ・令和 7 年度について、事業計画、資料 6 で展覧会スケジュールを提示
- ・4 月～5 月 11 日 企画展「井上関右衛門家文書の世界—堺鉄炮の生産・販売・技術—」を開催
- ・5 月 20 日～7 月 13 日 企画展「堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー」を開催。万博のテーマカラーでもある赤色と青色の資料を取り上げて展示
- ・7 月 19 日～9 月 7 日 企画展「堺のたからもん—金で魅せる・黒を愛でる—」を開催中。金色と黒色の資料を取り上げる。明治 5 年に発見された仁徳天皇陵古墳前方部埋葬施設の副葬品と考えられる金銅装刀子も展示。本企画展は、協議会終了後にご案内する。
- ・9 月 20 日～11 月 3 日 特別展・第 27 回堺市所蔵美術作品展「堺の竹工芸家たち—前田竹房斎と田辺竹雲斎—」を開催予定。堺市茶室伸庵で同時開催「四代 田辺竹雲斎展」も予定。本展は堺市文化課主催、堺市博物館共催
- ・さかい利晶の杜では、4 月 19 日～5 月 19 日 企画展「堺に生きた山崎豊子のまなざし—愛用品の数々—」を開催
- ・7 月 26 日～9 月 7 日 企画展「パリより—与謝野晶子と寛の渡欧体験—」を開催中
- ・資料 7 に企画展関連の講演会やワークショップ、普及広報事業、国際機関との連携事業に関するイベントを記載。令和 7 年度の新たな事業として、毎週日曜日午前 11 時半から学芸員サンデータークを開催している。学芸員が展示品解説を行うもので、長期休館前 11 月初旬まで実施。

○令和 7 年度の組織体制

- ・資料 8 の令和 7 年度組織体制は、館長、副館長、学芸課職員 29 名の計 31 名。事務職の学芸課長と学芸職の参事のもと、課長補佐、主幹 2 名、そのもとに学芸係、推進係、管理係の 3 係の組織。うち 19 名が学芸職。残りの 10 名が事務職及びその他の職員となっている。
- ・参考として、堺市立みはら歴史博物館は、令和 2 年 4 月より指定管理者制度を導入

(中委員)

- ・資料 7 のうち、さかい利晶の杜の「パリより」の企画展関連イベントの記載がないので追記すべき。

(参考)

- ・記載漏れのため、実績に追記する。

(中委員)

- ・さかい利晶の杜の位置づけが判りにくい。もう少し何か活発に堺市博物館と連携した活動ができるのか。
- ・資料 8 に点線で囲ってあるのはどういう意味があるのか。

(課長)

- ・体制図の中で、利晶の杜を点線で囲んでいるのは、博物館の同じ建物の中に事務所を有していないという意味である。

(中委員)

- ・指定管理者は利晶の杜には関係はしていないということか。美原はまるごとその指定管理者に任せているということだが。

(課長)

- ・利晶の杜の所管課は文化課であり、指定管理者制度を導入している。堺市立みはら歴史博物館の所管は、博物館学芸課であるため、資料 8 に記載しているような書き方をしている。

(爾宜田会長)

- ・課長補佐は今利晶の杜にいるのか。この組織図どおり会計年度職員 4 名でいいのか。

(参考)

- ・常駐しているのは会計年度職員の学芸員 4 名。そこに、当館正規職員学芸員が常勤ではなく週に何日か利晶の杜へ出向き、利晶の杜の業務を行っているという状態

(爾宜田会長)

- ・この組織図に文化課も入れた方がいいのではないか。堺市博物館の関係ではこうならざるを得ないというのはわかるが。この組織図は対外的には出ないのか。

(課長)

- ・本協議会が公開のため、この資料も公開される。

(禰宜田会長)

- ・組織図についてもまた検討してもらえれば。

<事務局説明>

議事（2）案件①堺市博物館の休館中の取組について

○休館に関する基本情報

- ・休館期間は令和7年11月4日～令和8年3月31日
- ・理由は空調設備の更新工事（熱源とエアーハンドリングユニット、それから冷却塔等の更新）
- ・1980年に博物館が開館、1989年に2階収蔵庫内の内壁を更新、1999年～2000年に1回目の大規模な更新工事を実施した。
- ・空調設備のトラブルについて説明（温水の供給機能の故障とか、液晶パネルの故障、ポンプ回りの故障、エアハン内部の漏水、弁機能の劣化による不具合等）
- ・休館中のめざす方向は、博物館機能を維持し、地域との関わりを継続強化することで、再開館時の誘客力、地域貢献度を最大化すること

○資料管理事業

- ・空調設備工事に伴う収蔵庫資料の安全管理は非常に重要である。貴重資料の非工事区域への移動、防塵のための工事区域への遮蔽物の設置を行う。

○資料整理事業

- ・古文書資料の整理、データベース化を推進する。

○普及広報事業

- ・館外の方のアウトリーチ：出前講座等例年行っている小学校三年生を対象とした昔の暮らしの展示・体験が今年度は休館中でできないため、出前授業を行う。M・Cみはらでの縦通のワークショップや市内商業施設等での日本の無形文化財パネルの開催等を行う。堺自由の泉大学や市内各区の図書館での講座・講演を計画している。
- ・広報事業：インスタグラム等SNSを活用した情報発信を継続する。
- ・博物館ボランティア研修も実施

○令和8年4月以降の開館に向けた準備事業

- ・常設展示近世コーナーのリニューアルを予定。サイン、バックパネル等を中心としたコンセプトの見直しと更新

- ・翌年度の企画展は、資料9にあるものを予定。まだあくまで予定の段階で、予算要求もこれから行う。
- ・博物館リニューアルイベントの実施も計画中

○資料管理事業について質疑

(國賀委員)

- ・資料管理事業について、厳寒の時期も含む大規模な空調設備工事だが、事前に万全な措置、貴重資料の非工事区域への移動と工事区域への遮蔽措置の設置をすることは、非常に大事だと思う。貴重資料を保管する非工事区域の空調は効くのか。冬季の温湿度、特に結露の問題が気になるので、全て空調ストップしてしまうのではなく、少しは空調が効く場所があり、そこに移すということなのか。

- ・休館中の他館への作品の貸出はどうするのか。

(主幹)

- ・当館では、結露対策もあり、通常冬季の空調を全て止めている。ここ15年ほどそういう形を導入しており、中間期および冬期は空調を使わずに湿度管理を行っている。当館は、55%未満でコントロールする形をとっている。梱包の工夫等あらゆる方法を試行し、資料の管理をしている。

(國賀委員)

- ・その方法で実際にコントロールできているなら、素晴らしいやり方だと思う。それずっと何年も一定しているということか。

(主幹)

- ・その手法で一定である。空調は工事期間でも常にかけ続けることを保証する方が望ましいということか。

(國賀委員)

- ・空調をかける、かけないということだけにかかわらず、とにかく温湿度一定ということが資料には大事だと思う。寒い収蔵庫から少し暖かい場所に移動させるだけで結露しやすいので、気になったということである。

(学芸係長)

- ・休館中の他館との貸出については、基本的には工期を避ける形で貸出の調整をしている。どうしても工期の中で入る場合は、貸出先と交渉し、工事に影響がない形で貸出というように対応している。

○資料整理事業について質疑

(伊住委員) ※欠席のため参事代読

- ・ 資料整理の進捗・成果を見るようにすれば、休館中の活動として理解を得られるのではないか。

(主幹)

- ・ 資料整理の成果は、従来から学芸員が当館研究報告に資料報告の形で公表しているのとあわせて、インターネット上の館蔵品データベースで市民・研究者に広く公開する。また、SNS等のツールを使って休館中に資料整理を進めていることを発信し、資料整理の結果を反映したデータベースの利用を促していくようにいたします。さらに、学芸員が出向する講演会等でも、データベースの使い方を案内していく。委員の皆様にも当館資料のデータベース活用やその有用性の普及にご協力いただきたい。

(村田委員)

- ・ 資料 10「令和 7 年度 歴史（古文書）資料の整理について」にあがっているものは一応すべてなのか。上段に近年の新収蔵資料とあるが、かなり前に収蔵されたものの、まだ目録作成がなされていない資料もあるのか。

(主幹)

- ・ これまでに収集した資料はほぼ順次研究報告で目録とともに紹介しており、かなり前に収蔵し整理がまだというものはほぼない。新たに頂戴した順に優先順位を決めて、目録作成やデータベース化を進めている。表には休館中の作業のために選んだ資料をお示ししている。

(村田委員)

- ・ だいたい収蔵されたものについては、割と早く目録を作成しているということで理解した。データベース入力の内容は、写真の電子データを入力するということなのか。

(主幹)

- ・ 利用しているデータベースシステムは、他の博物館でもよく使われているものだが、当館で導入したのはそれほど昔ではなく、現在登録作業中のものを、休館期間中に一気に進めようというものである。写真は、既存データがあるものは追加している。しかしながら、目録の形を電子化することを最優先に進めたいと考えている。

(村田委員)

- ・ 目録の方は迅速に進めても、写真の電子データ化はあまり進んでいないということか。

(主幹)

- ・マイクロフィルムによる写真撮影はしているが、電子化してデータベースに全て追加するのはなかなか大変である。ただし、求められれば提示できる形にはしてあるので、活用はできる状態にある。

(村田委員)

- ・資料収蔵に関してもう一つ、寄贈資料や寄託資料とあるが、ある資料館の方針では、寄贈は受け付けるけれども、寄託は受け付けないというようなところがあるという話を聞いたことがある。堺市博物館の場合は、寄贈を優先するとかそういうことはあるのか。

(主幹)

- ・そのようなことはない。所有者の意思を尊重し、受け入れを行っている。

○普及広報事業について質疑

(黒田委員)

- ・休館期間中のアウトリーチとして、講座やパネル展を予定していて大変かと思うが、保管がむずかしい実物資料は無理でも、模型などを展示するということは企画しないのか。現在休館中の江戸東京博物館は、上野の東京都美術館で1週間ほどの出張展示とパンフレットの配布をしていた。
- ・あわせて、年度末の事業報告の中で、講座は参加者数が出せるが、パネル展の来場者の人数はどうするのか。とくに博物館の来館者数は11月4日以降ゼロになるので、アウトリーチでの人数を把握する方法を検討しておくべき。

(参考)

- ・実物資料等の出張展示は検討したが大規模商業施設等では難しいと判断し、実施は予定していない。当館では大規模商業施設でのパネル展の開催も前例がないため、今回はパネル展での情報発信に注力することとなった。
- ・人数の数え方は、商業施設等の当日買い物に来られた方のカウント方法を確認し、使える数字があれば、その数をパネル展の観覧者数として把握したいと思っている。

(主幹)

- ・出張パネル展の人数については、例えばパンフレット等を置いておき、持ち帰った数で把握する方法が考えられる。

(森委員)

- ・昔の暮らし出張講座について、私も昨年度、3年生のこどもたちと一緒に来館した。こどもたちも非常に喜んでいたし、実物を見ることができるということで、非常に学校も頼りにしている。今年、堺市博物館が休館することを3年生の担任に伝えると大変驚いていたので、今年は出張講座という形であると伝えると、安心していた。
- ・資料11には25校程度ということだが、昨年度来館した校数と比較して、25校程度でそれが全部カバーできるのか。抽選で落ちるとなると、その学校は大変に思うが問題ないのか。

(参考)

- ・昨年度本プログラムを利用して来館した学校が25校程度であった。さらに、休館期間中の従事できる職員数も考慮し、昨年度同様25校程度としている。申込数が上回った場合も、若干枠を増やすことは検討したいと考えている。できるだけ多くの学校にこの出張講座で対応し、翌年度いつも通りのメニューで再開したいと思っている。

(岡田副会長)

- ・資料整理について、資料10にある目録の作成は、今まで紙ベースで目録単独や研究報告掲載等が中心だったと思うが、基本的にその紙ベースのものをエクセルやデータベースシステム上でデジタル化して、データベース公開として基本どんどんアップし、世界中からアクセスできるような方向に持っていくという理解で良いのか。
- ・写真、収蔵品を撮ったフィルム、マイクロフィルムのデジタル化はどの程度進んでいるのか。フィルムベースで残しているもののデジタルデータ化は、今回あまり話出てこなかったが、それは淡々と進んでいるということなのか。

(主幹)

- ・まず、目録のデータベース化を今回の休館期間中の第一のポイントとして出した。最終的には画像を加えてデータベースを充実したいと思っている。なおフィルムについては、最もオーダーが多いものから順次、スキャナーを使ってデジタル化している。これまで堺市博物館が撮ってきたフィルムが全てデジタル化されることが最も好ましく理想的だが、一気に何もかも進めるのは、マンパワーもあり難しい。
- ・岡田委員からの質問の意図には、紙ベースの目録の公開をやめるのかということも含まれるのか。

(岡田副会長)

- ・紙ベースの目録公開の継続のことも気になる。

(主幹)

- ・紙の目録は形を変えて続けるつもりにしている。例えば資料10のうち5番目の山下是臣の書家資料について、一定の目録と資料群についての解題を研究報告に掲載し、データベースで資料の一覧を見ることができるという、ハイブリッドの形で提供することが必要かと思っており、その方向をめざしている。

(飯田委員)

- ・小学校向けの出張講座について、非常にいいことだと思う。具体的には講演するだけでなく、パネル等色々と持つて行って行うのか。

(参事)

- ・小学生対象のメニューとしては、昔の暮らし全体のレクチャーを話すことと、近現代の道具に実際に触れながら体験する、親しみやすい形のメニューを準備している。

(飯田委員)

- ・入館者の方を増やすためには、やはり子どもの頃から博物館に親しむことが非常に大事だと思っている。小学生の方が来やすい取組をされているのは素晴らしい。
- ・学校での来館に関連して、「教員のための博物館の日」という全国的な取組がある。大阪市でも自然史博物館がやっているということで、堺市博物館では取り組んでいるのか。ホームページを見ると、学校団体での来館に事前の打ち合わせを推奨とあるので、詳しく手厚く対応していると思うが、例えば先生向けの解説資料や出張授業で使う触れるような展示物の貸出等、教員のための博物館の日をやるかやらないかに関わらず、教員向けの取り組みは既にしているのかが気になった。していないとすれば検討してもいいと思う。
- ・どうしても小学生が中心になっている。中高生の取り組みもあるものの、中学校でも教科学習の中でとても参考になることがあると思うので、中学校向けの働きかけをすると、より広がるのではと思った。

(参事)

- ・教員向けメニューとしては、今提示されたようなメニューは、当館ではまだできていない。中堅教員研修は受け入れており、博物館事業を説明する機会にはなっているが、教員全体に対するそのようなメニューはまだできていない状況である。昔の暮らしや遠足等を申し込んだ小学校の教員との事前打ち合わせで、常設展示等について説明する入念な打ち合わせをしている。そういった個別の機会をとらえて教員への説明をしている。教員に広く提供できるメニューについては、今後検討が必要と思っている。

- ・小学校を対象としたメニューは、受け入れを広く行い、参加校数が増えているところだが、中学生、高校生に対する利用の機会は、ご指摘どおり小学校に比べると非常に少ない状況である。職場体験のような受け入れは行っているが、それでも小学生の受け入れと比べると数が少ないので、今後の検討課題として考えておきたい。
- ・教員に対しては、堺市学校園教職員厚生会からの申込を受けて、勾玉づくりのような体験活動も受けている状況である。

○令和8年4月以降の開館に向けた準備事業について質疑

(佐藤委員)

- ・常設展示のリニューアルがとても気になる。パネルを中心とした展示コンセプトの見直しと更新というのは、ものすごく大きなことではないか。充分な議論をここでもしできるのであれば教えていただきたいと思っている。具体的にどんな計画があるのか。
- ・近世の展示をリニューアルするならば、休み中の館外活動がこの広報になるように設定するといいのではないか。特に近世をアピールしているように現状読み取れない。資料11の館外活動で講演のテーマが書いていないのは唯一図書館での実施だが、図書館の実施が連動してうまくアピールできる講座なのか。もし特に決めていないのであれば、図書館でどうするか決めているのかとか、まだ変更や追加の可能性があるのか。図書館という場所を有効に使うのであれば、講演会だけではなく、幅広い年齢層を対象に、展示と関連した堺の本の紹介コーナーの設置、関連する時代や内容とセットにした絵本の読み聞かせの会の開催、あと黒田委員の質問にもあったように物を何らか持っていく等を行うといいのではないか。話を聞くだけではなく、物を見る、体験できるような、身体的経験を伴うことが活動できるととても魅力的なので、無料コーナーに置いているような触れるものや、昔の暮らしで持ち出せるようなものをセットで持って行って読み聞かせする等、何らかの可能性を考えられると思う。図書館での館外活動とリニューアル後のための広報要素との連動の意義を感じている。

(主幹)

- ・11月に中図書館で行うものは、まさしく近世をテーマにしたフォーラムを予定している。それぞれの立場の専門が集まり、地域フォーラムの形で江戸時代のことを中心に話す予定。

(館長)

- ・リニューアル後の展示とどう連動するのか。

(主幹)

- ・フォーラムの内容も江戸時代の展示に反映できればと考えている。

(佐藤委員)

- ・肯定的に思いながら聞いていた。できれば大人向けのフォーラムだけでなく、こども向けの絵本の読み聞かせでアピールしながらチラシ配るようなことができれば、年齢層やターゲット層を限らず、博物館や歴史が好きなにコア層にフォーカスしない、たまたま来館した人が博物館の軽い行事に参加し、広く情報に触れるチャンスが生まれそうなので、難しくなくできることがあれば、追加を考えられると効果が増すと思う。

(主幹)

- ・図書館と連携した事業については司書に相談し検討する。
- ・近世展示の更新については、大和川付け替えに関する村田委員の画期的な研究や、岡田委員の研究の成果を反映し江戸時代の堺の印象を変えていくような要素を入れる、これまでの堺市史を中心とした展示にはなかったものを入れていく予定である。

(佐藤委員)

- ・パネルを中心にと書いてあるが、資料の入れ替えもあるのか。

(主幹)

- ・パネルと書いたのは、例えば大きくケースを変えるようなことなどは想定していないということで、当然実物資料は替える。

(佐藤委員)

- ・かねてより教育普及に関して、どんな対象者がいて、どんな時代があって、資料の分野別に何を扱うか、全体的な計画を立てられるといいと考えている。今回近世を変えるのであれば、まず時代別の切り口で、近世に関する教育普及を検討してもいいのではと思う。プログラムのベースは古代がほとんどである。特に夏休みは古代のプログラムしかなく、定番の中世や近世プログラムができればいいとずっと思っている。今回のリニューアルをきっかけに、定番の良い近世プログラムを検討してほしい。

(主幹)

- ・今展示で考えているのは、堺の小学4年生が必ず学習する大和川の付け替えについての内容である。

(村田委員)

- ・次の協議会はいつになるのか。次回にはリニューアル内容等が大体わかるのか。

(課長補佐)

- ・次回は2月もしくは3月予定している。

(村田委員)

- ・コンセプトに関して言うと、今の近世の常設展示の基本的な展示のどこが一番問題で、それをどう変えるかを、文章化した形で資料に入れてほしかったと思う。もし今、一言で述べるとするとどうなるか。

(主幹)

- ・既存の近世展示の問題点は、産業と文化というトピック的なものであったことである。また、中世の栄光に対する近世の暗黒のような印象がある。
- ・リニューアルについての担当者案としては、1615年6月18日に起工式が行われ、堺の町の復興が始まったところからスタートする。そして都市が形成されて70年たった姿が、元禄の大絵図の時代になるという、通史が追える展示としたい。

(禰宜田会長)

- ・見直しと更新ということだが、今年度中にパネルは新しく作り替える予算も通っているのか。作り替えてしまうように読み取れるが、スケジュール感はどうなっているのか。

(館長)

- ・リニューアルの解釈が全く違う。委員が言っているのは来年4月以降オープン時にどのような新しい展示をこの休館期間中に準備するかを聞きたいんだと思うが、これに対するレスポンスは事務局側にはあるのか。現在、来年の4月以降の企画展示においては、5つの仮題は考えているが、それは5ヶ月間蓄えた新しいアイディアに基づくリニューアルという展示に対応するようなものを考えているのかどうか、私はそうは思えないで、今の議論とは違うなと。現在行っている通常の展示形式が続くのではないかと私は思っている。

(参事)

- ・近世コーナーの展示サインパネルの更新は、予算化をしている。これまで堺市博物館の常設展示室は、多くの面積を占めている古代・百舌鳥古墳群の時代から中世へと、順次リニューアル・更新をしてきた。サインパネル・バックパネルは新しい研究成果に基づいて書き換えや多言語化等の更新を行い、展示物も更新・入れ替えをしてきた。今回の近世コーナーのリニューアルも、これまで同様に、展示の入れ替え・見直し、新しい研究成果に基づき多言語化がなされたパネルの更新をするものである。つまり古代、中世と同じようなコンセプトでの更新であり、展示ケースのレイアウトの変更等大きなことは予定しておらず、この5ヶ月間でパネルの更新ができると考えている。
- ・先ほど館長が申し上げた来年度の企画展は、常設展のリニューアルとは直接リンクはしない。来年度の開館後、堺の歴史・文化に関する来館者の関心を引くような企画展を、抽象的な書き方ではあるが予定している。来年度予算の議論が府内で始まったばかりだが、現在、担当者がそれぞれ企画を持ち寄って予算要求に備えている段階である。

(禰宜田会長)

- つまり常設展示は、古代のようにかなりイメージが変わるものを作り替えることを今準備しているということ。
このリニューアルは休館期間に関係なく、以前から準備しているということでいいか。

(参考)

- 近世のレイアウトが大幅に変わったり、全く新しい何かが出現したりといふものではない。これまでに順次作ってきたサインパネルに準じた形で最新の調査研究を取り上げ、かつ多言語化を含んだパネルの更新と、それに伴う展示物の入れ替えを、この5ヶ月間検討し、4月に備えたいと考えている。

(禰宜田会長)

- 学術的に何かあれば個別に確認するといふと思うので、資料9に示された準備事業のうち、常設展示のリニューアルと企画展については、事務局で進め、次回協議会で具体的な話が聞ければと思う。

<事務局説明>

議事（3）その他

- 現在、本市では、新たなミュージアムの構想策定を進めており、「（仮称）堺ミュージアム」ということで、今年度から、基本構想（案）の策定に向けて着手した。当協議会からは、國賀委員に、この懇話会に参画いただいて、意見等を頂戴している状況である。来年度の4月以降に正式な構想として取りまとめるスケジュールになっている。具体的な詳細は、現在検討中のため、報告だけに留めるが、この博物館の老朽化が進んでいることや、堺アルフォンス・ミュシャ館のような施設が別々にあること等の現状・課題がある中で、（仮称）堺ミュージアムは堺にある資源を一堂に会したような施設として、整備を進めるため、現在第一步を踏み出した状況である。

【閉会】

(禰宜田会長)

- 多くの意見が出て、本協議会らしいと思った。
- 案件は休館中の話だったが、それに限らず、館として恒常に取り組むべき点に関する意見も含まれていたように感じた。事務局で整理し、まずこの5か月間に進めることと、継続的に取り組むべきこととに分けて進められればと思った。

(館長)

<閉会挨拶>

○報告について

- ・事務局から館の活動を網羅する形での報告。以前よりはだいぶ改善したと思うが、具体的な展示予算やその広報予算等財政的な説明をもう少し詳しくという要望もあったが、概ね今日の方向性で今後も続けていきたいと思う。

○案件について

- ・5ヶ月休館することの大きなデメリットは、博物館に人がかえってこない可能性がかなり高いこと。小学校や各文化館・施設、一般の人とのつながりをどのような方法で維持していくかが非常に大きな問題。委員からの様々なアイディアを頂戴し、出張展示のような予定していないものの提案もあったが、基本的には講演会等を中心に行っていくことがよくわかったと思う。
- ・資料のデジタル化、データベース化は今もやっている。休館中だからといって多くの学芸員が専念できるわけではない。主幹中心に頑張っているが、現有スタッフでできることしかできないのだろう。他の大学や博物館では、院生を雇って取り組むことも可能だが、堺市では学術的な投資をする余裕がなく、現状のように細々と続けるということになる。
- ・5ヶ月のロスをどう回復し、人々に再度どう来てもらうか、開館中の現在の勢いを失わず4月に続けるためにどう活動していくべきか。5ヶ月間休館すると新しいものを作ってくれるだろうという期待に対して、リニューアル及び来年度以降の展示で応えられるように、いかに取り組むのか考える必要があると思う。今考えていることを次回協議会までには紹介できると思う。